

受験番号	
------	--

平成 30 年度 摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程 入学試験

筆記試験：「専門基礎科目」

実施日：平成 30 年 5 月 13 日(日)

実施時間：9:30 ～ 10:20 (50 分間)

<注意事項>

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. この問題冊子の本文は、9ページです。
3. 印刷不鮮明な箇所および脱落などがあれば、ただちに申し出てください。
4. 解答用紙は 1 枚です。解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
5. 受験番号を、問題用紙と解答用紙の受験番号欄に記入してください。
6. 答案が完成しても、退室することができません。
7. 問題用紙は試験終了後に回収するので、持ち帰ることができません。

問題1 次の問1～問10の各設問に対する適切な答えを1つ選び、解答用紙の所定の欄に番号を記入しなさい。

【問1】 中枢神経系における神経路について、誤っているのはどれか。

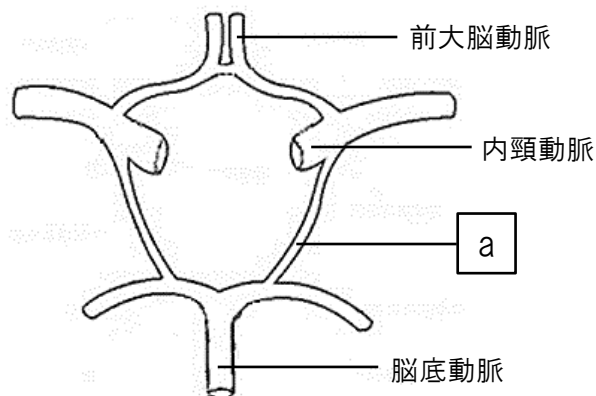
1. 皮質脊髄路は、延髄の下端で錐体交叉し側索内を下行する。
2. 脳幹には、12 対の脳神経核が存在する。
3. 皮質延髄路は、顔面や咽頭・喉頭・舌の運動に関与する。
4. 感覚受容器で感知された刺激は、脊髄の後根を介して上行性に脳に伝達される。

【問2】 脳の局在と機能の組み合わせとして、誤っているのはどれか。

- | | | |
|----------|---|----------|
| 1. 側頭葉 | — | 一次聴覚野 |
| 2. 視床 | — | 自律神経系の中樞 |
| 3. 延髄 | — | 嚥下中枢 |
| 4. 大脳辺縁系 | — | 情動行動 |

【問3】 下の図の a について、正しいのはどれか。

1. 前交通動脈
2. 中大脳動脈
3. 後大脳動脈
4. 後交通動脈



<ウィリス動脈輪>

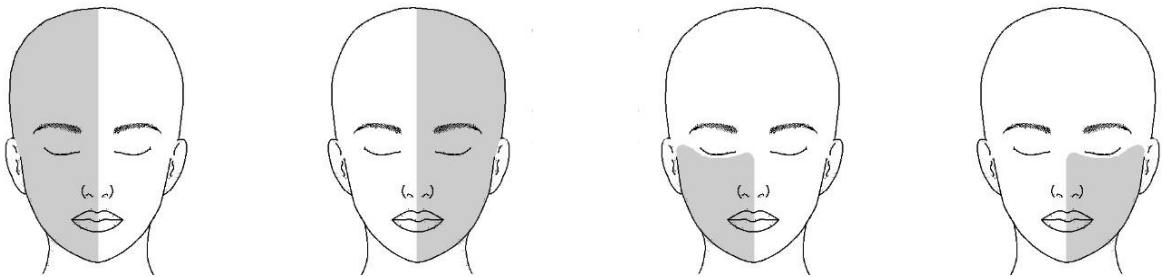
【問4】 小脳失調でみられる症状について、正しいのはどれか。

1. 血圧コントロール不良
2. 全身の筋緊張亢進
3. 姿勢保持困難
4. 下肢の麻痺

【問5】 脳神経とその障害による症状の組み合わせとして、正しいのはどれか。

1. 第Ⅲ脳神経 — 対光反射消失
2. 第Ⅴ脳神経 — 味覚障害
3. 第Ⅵ脳神経 — 眼瞼下垂
4. 第Ⅸ脳神経 — 舌の偏倚

【問6】 中枢性の右顔面神経障害によって麻痺が生じる部位として、正しいのはどれか。



麻痺部位

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.

【問7】 脳神経系フィジカル・アセスメントについて、正しいのはどれか。

1. 発声時に口蓋垂と咽頭後壁が左に引かれたため、左の咽頭に麻痺があると判断した。
2. 挺舌時に舌が左に偏倚したため、左の舌下神経障害があると判断した。
3. 右眼瞼の閉眼ができなかったため、右の三叉神経障害があると判断した。

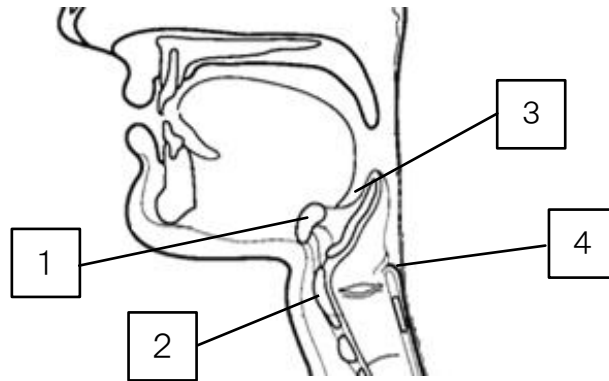
4. 舌の前方 2/3 に味覚障害を認めたため、舌咽神経の障害があると判断した。

【問 8】 意識レベルの評価について、正しいのはどれか。

1. Japan coma scale(JCS)の「I-3」は、普通の呼びかけで容易に開眼する状態である。
2. Japan coma scale(JCS)の「0」とは、死亡を意味する。
3. Glasgow coma scale(GCS)は、数字が大きいほど重症である。
4. Glasgow coma scale(GCS)では、開眼、最良言語反応、最良運動反応を評価する。

【問 9】 下の図の1～4の部位の名称として、誤っているのはどれか。

1. 舌骨
2. 輪状軟骨
3. 喉頭蓋谷
4. 食道入口部



<頭部 正中矢状断>

【問 10】 食道について、誤っているのはどれか。

1. 生理的狭窄部は、2 か所である。
2. 近位 1/3 は横紋筋、遠位 2/3 は平滑筋から成る。
3. 嚥下された食物を蠕動運動によって胃に運ぶ。
4. 下部食道括約筋の収縮が、胃食道逆流の防止に関与する。

問題2 次の問 11～問 20 の各設問に対する適切な答えを1つ選び、解答用紙の所定の欄に番号を記入しなさい。

【問 11】 摂食嚥下の5期モデルについて、誤っているのはどれか。

1. 先行期では、感覚器から情報を収集し、食べ方を判断する。
2. 準備期では、食物を嚥下しやすい形態に調整し、舌背上に集積する。
3. 口腔期では、重力を利用して食塊を咽頭に送り込む。
4. 咽頭期では、咽頭収縮筋が上方から順次収縮し、食塊を食道入口部に向けて押し進める。

【問 12】 食事場面の観察で舌根部の挙上不良を疑う所見について、正しいのはどれか。

1. 声質が湿性になる。
2. 水分を口に入れた直後にむせる。
3. 口腔内に食物の残留がある。
4. 鼻汁が増える。

【問 13】 摂食嚥下アセスメントについて、正しいのはどれか。

1. 夕行の発声が不明瞭であったため、口唇閉鎖が不十分であると判断した。
2. 嚥下後に湿性嚔声と咳嗽を認めたため、不顕性誤嚥であると判断した。
3. 嚥下後に口腔内全体の食物残留を認めたため、食塊形成が不十分であると判断した。
4. 嚥下反射の開始直後に咳嗽を認めたため、嚥下後誤嚥であると判断した。

【問 14】 口腔乾燥の原因について、誤っているのはどれか。

1. 頭頸部がん放射線照射
2. 糖尿病
3. 精神的ストレス
4. 口腔扁平苔癬

【問 15】 呼吸音聴取で粗い断続性副雑音が聴かれた場合の原因について、正しいのはどれか。

1. 気道での分泌物貯留
2. 胸膜での炎症
3. 肺胞の伸展性の低下
4. 気道の狭窄

【問 16】 成人患者の気管内の一時的吸引における吸引圧として、正しいのはどれか。

1. 100～150mmHg
2. 200～250mmHg
3. 300～350mmHg
4. 400～450mmHg

【問 17】 早期経口・経腸栄養のメリットについて、誤っているのはどれか。

1. 腸管粘膜の形態と機能の維持
2. 腸管免疫能の維持
3. 代謝・異化亢進
4. 平均在院日数の短縮

【問 18】 摂食嚥下障害によって生じる問題として、誤っているのはどれか。

1. 誤嚥性肺炎
2. 低体温
3. 脱水
4. 窒息

【問 19】 誤嚥性肺炎の発症に関わる要因として、誤っているのはどれか。

1. 誤嚥物の量
2. 誤嚥物の深達度
3. 誤嚥物の性質
4. 鼻腔の細菌数

【問 20】 摂食機能療法算定において嚥下訓練を実施できる職種として、誤っているのはどれか。

1. 言語聴覚士
2. 管理栄養士
3. 准看護師
4. 歯科衛生士

問題3 次の問 21～問 30 の各設問に対する適切な答えを1つ選び、解答用紙の所定の欄に番号を記入しなさい。

【問 21】 脳血管疾患について、誤っているのはどれか。

1. 高血圧性脳出血の出血部位のうち、最も多いのは被殻である。
2. 脳血管疾患による嚥下障害の有病率は、時間経過とともに低下する。
3. 偽性球麻痺は、延髄の嚥下中枢の損傷によって生じる。
4. 球麻痺を生じる代表的な疾患として、ワレンベルグ症候群がある。

【問22】 脳血管疾患と治療法の組み合わせとして、誤っているのはどれか。

- | | | |
|-----------|---|---------|
| 1. 脳梗塞 | — | 血栓溶解療法 |
| 2. 脳動脈瘤 | — | 血管バイパス術 |
| 3. 水頭症 | — | シャント術 |
| 4. クモ膜下出血 | — | クリッピング術 |

【問 23】 高次脳機能障害について、正しいのはどれか。

1. 左半側空間無視は、右頭頂葉の損傷によって生じる。
2. 注意障害では、時間や場所などの把握が困難になる。
3. 運動性失語では、聴覚理解が困難になる。
4. 遂行機能障害は、後頭葉の損傷によって生じる。

【問 24】 神経・筋疾患について、誤っているのはどれか。

1. 重症筋無力症は、抗アセチルコリン抗体による自己免疫疾患である。
2. パーキンソン病では、中脳黒質にレヴィー小体の蓄積を認める。
3. 筋萎縮性側索硬化症では、運動ニューロンが選択的に障害される。
4. ギランバレー症候群は、発症の数週間前に帯状疱疹ウイルスの先行感染を認める。

【問 25】 喉頭がんについて、誤っているのはどれか。

1. 術後嚥下障害では、咀嚼や送り込みなどの口腔機能に問題がない。
2. 喉頭がん患者の 9 割以上が喫煙者である。
3. 喉頭全摘術後は発声が不能になり、身体障がい者申請の対象になる。
4. 喉頭蓋を切除すると、喉頭挙上が障害される。

【問 26】 小児疾患について、正しいのはどれか。

1. ダウン症は、18 番染色体の異常が原因となる。
2. 脳性麻痺は、進行性疾患である。
3. 福山型筋ジストロフィーは、先天性疾患である。
4. 唇顎口蓋裂児は、知的障がいを合併する。

【問 27】 高齢者に多い摂食嚥下の問題について、誤っているのはどれか。

1. 歯の欠損による咀嚼能力の低下
2. 嚥下反射の惹起性低下
3. 安静時の喉頭の低位化
4. 咳嗽反射閾値の低下

【問 28】 認知症について、誤っているのはどれか。

1. 認知症罹患患者の内訳として、最も多いのは脳血管性認知症である。
2. アルツハイマー型認知症では、記憶障害が先行する。
3. レヴィー小体型認知症の特徴として、パーキンソン症状が挙げられる。
4. 前頭側頭型認知症では、人格の変化を顕著に認める。

【問 29】 副作用により錐体外路症状をきたす薬剤として、正しいのはどれか。

1. 抗コリン薬
2. 抗精神病薬
3. 抗血小板薬
4. ステロイド薬

【問 30】 肺気腫について、誤っているのはどれか。

1. 発症の危険因子として、喫煙が挙げられる。
2. 肺胞壁の破損により、ガス交換面積が減少する。
3. 気道の線維化により、気道壁が肥厚する。
4. 病変は可逆性である。